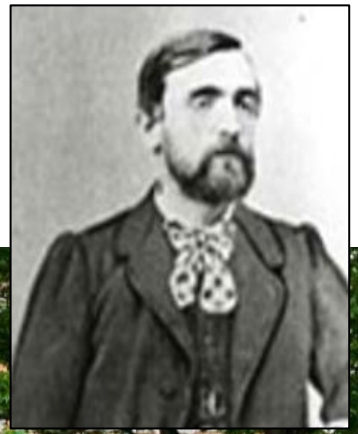
ヴェルニー公園から在りし日の横須賀製鉄所を望む

「小栗上野介」と「ヴェルニー」の胸像

ヴェルニー



小栗　上野介

江戸時代末の嘉永6（1853）年、ペリー来航を契機として、幕府はそれまでの政策を改め、アメリカ、イギリス、フラ ンスなどの欧米列強国と交渉しながら、開国に向けて動きはじめました。 これはそれまでの唯一の貿易国オランダの力が国際的に弱まったことも影響しています。 こうした交渉の中で、幕府は自国や諸外国の艦船を修理したり、新たに艦船を建造するための本格的な造船施設 の必要性を痛感するようになります。 幕府内の親フランス派であった栗本瀬兵衛(1822-1897)、小栗上野介忠順(1827-1868)、浅野美作守らは、フランス 公使レオン・ロッシュ(1809-1900)に造船施設建設の話を伝え、協力を依頼しました。ロッシュは、大規模な造船施 設を造る前にまず準備段階として小規模な工場を建設するよう幕府に進言します。この進言に基づいて元治元 （1865）年、幕府は現在の横浜市中区吉浜町（JR石川町駅裏）に横浜製鉄所を建造します。横浜製鉄所の建造に は、日本人技師の育成と、今後より本格的な造船施設を建造するために必要な設備などの準備という目的がありました。

小栗上野介忠順(1827-1868)
Regional Lord of Kohzuke, Oguri Tadamasa

フランス公使レオン・ロッシュ(1809-1900)
Michel Jules Marie Léon Roches

横浜製鉄所(1865年)
Yokohama Steel Works

https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2120/culture_info/french/yokosukaseitetuzyo.html

そして1865年11月15日、幕府は「横須賀製鉄所」の建設に着手し ました。 首長には、フランスの理工系学校の最高峰であるエコール・ポリ テクニック出身のフランソア・レオンス・ヴェルニー(1837-1908)が 選ばれ、およそ130名の技師、職工、医師,教師が横須賀村に やってきました。ヴェルニーは、後に幕府が崩壊の危機を迎えたときも帰国せず、自分に与えられた使命を最後まで終える決意を示します。こうして、横須賀には、フランスからさまざまな技術 が輸入され、近代工業の最先端のまちとして発展していきます。 明治元（1868）年、江戸幕府が崩壊し、明治政府が樹立されると、 横須賀製鉄所は明治政府に引き継がれました。そして明治4 （1871）年には第1号ドックが完成し、いよいよ本格的に動き出し ます。横須賀製鉄所で建造された最初の軍艦は『清輝』といい、明治8（1875）年に進水しました。

フランソア・レオンス・ヴェルニー(1837-1908)
François Léonce Verny

横須賀製鉄所(1868年)
Yokosuka Steel Works

https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2120/culture_info/french/yokosukaseitetuzyo.html